

令和5年度 第5回田原市総合計画審議会：会議録

日 時	令和5年10月3日（火）10時00分～11時45分
場 所	田原市役所 第1委員会室（北庁舎3階）
出席者	<p>委員（敬称略、順不同）</p> <p>戸田 敏行 愛知大学地域政策学部 教授</p> <p>本田 雅彦 田原市地域コミュニティ連合会 会長</p> <p>高崎 佐智江 田原市教育委員会 委員</p> <p>山本 貢司 田原市農業委員会 会長</p> <p>鈴木 照彦 愛知みなみ農業協同組合 代表理事組合長</p> <p>河合 利則 田原市商工会 会長</p> <p>森下 直樹 渥美商工会 会長</p> <p>川口 正康 愛知県漁業協同組合連合会東三河支部 支部長</p> <p>山田 俊郎 田原臨海企業懇話会 会長</p> <p>小林 篤史 田原市消防団 団長</p> <p>大和 義弘 田原市土地改良区 理事長</p> <p>山田 貴三 田原市社会福祉協議会 会長</p> <p>長神 隆士 田原市老人クラブ連合会 会長</p> <p>吉田 昌弘 愛知厚生連渥美病院 病院長</p> <p>石黒 功 渥美半島観光ビューロー 会長</p> <p>渡会 美加子 NPO法人たはら国際交流協会 理事</p> <p>稲垣 瑞恵 愛知県農村生活アドバイザー協会田原支部 前会長</p> <p>長島 敦 田原金融協会 会長</p> <p>太田 文子 田原市民生児童委員協議会 副会長</p> <p>佐藤 青子 田原市小中学校PTA連絡協議会 家庭教育委員</p> <p>浅野 純一郎 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授</p>
欠席者	<p>中川 鈴江 田原市更生保護女性会 会長</p> <p>鈴木 嘉希津 一般社団法人田原青年会議所 理事長</p> <p>杉浦 操 田原市赤十字奉仕団 委員長</p>
傍聴者	なし
顧問	山本 浩史（欠席）
事務局	<p>企画部 部長</p> <p>企画部 企画調整監</p> <p>企画部 次長</p> <p>企画課 4名</p> <p>策定支援委託業者 1名</p>

議 題	1 会長あいさつ 2 報告事項 (1) 第4回審議会の会議録について【資料1】 (2) 今後の予定について 3 議題 (1) 第2次田原市総合計画（案）について【資料2、3、4】 4 その他
配布資料	会議次第 資料1 令和5年度第4回田原市総合計画審議会 会議録 資料2 第2次田原市総合計画（案）の概要 資料3 前回資料からの主な変更点 資料4 第2次田原市総合計画（案）

1 会長あいさつ

戸田会長	委員の皆様には、お忙しい中ご参集いただき感謝申し上げます。 本日の出席委員は審議会条例第7条第2項に定める過半数を上回っているの で、本会議は成立している。 それでは、ただ今から第5回総合計画審議会を開会する。
------	--

2 報告事項

- (1) 第4回審議会の会議録について
(2) 今後の予定について

戸田会長	報告事項について、事務局の説明を求める。
事務局	(資料説明) 資料1、次第

3 議題

- (1) 第2次田原市総合計画（案）について

戸田会長	議題に入る。「(1) 第2次田原市総合計画（案）について」、事務局の説明を求 める。
事務局	(資料説明) 資料2、3、4
戸田会長	事務局の説明について、ご質問・ご意見等いただきたいと思う。
本田委員	この案は、まだ訂正可能だろうか。資料2、土地利用の基本的な考え方の3点 目に「地震・津波等の災害への対応」とあるが、それよりも最近は大雨等の風水 害に市民として大きな危機感を抱いているので、ここに“風水害”という言葉も 加えてはどうかと思った。

事務局	資料4の36ページ、①の3点目をご覧いただきたい。こちらに「台風、高潮、集中豪雨」と記載している。見出しとしては「地震・津波等」となっており「等」に風水害も含めているわけだが、台風、高潮、集中豪雨のような言葉も明記するほうがよいということか。
本田委員	資料2は概要ということで、表記にインパクトがあるほうがよいと思った。
戸田会長	市民の方の多くが最近心配されていることが豪雨やそれによる川の氾濫であるため、そのような言葉も記載したほうがよいというご意見だと思う。
事務局	検討する。
稲垣委員	資料4の26～27ページに、田原市の未来の姿として、まちづくり市民会議で考えられた田原市の理想の姿・イメージがイラストで表現されているが、文章も添付することは可能か。
事務局	ページに余白があるので、説明文を加えようと考えている。
山本委員	資料4の94ページ「農業の振興」の現状と課題の3点目に「持続可能で安心・安全な農産物を供給するため、減農薬、脱炭素など環境保全型農業に取り組むことが求められています」とあるが「減農薬」ではなく“有機農業”という言葉を入れてほしい。2021年に「みどりの食料システム戦略」が国で策定された。そこでは環境に対するやさしさということで、有機農業がうたわれている。田原市は平地で水も豊富で天候にも恵まれているため、今までそういったことに目を向けていなかったと思う。キャベツにしても、硝酸態窒素が非常に多くてヨーロッパの基準値と全く合わず、その方面への輸出は難しいところがあるので、今後は有機農業の取組が必要になってくると考えている。宮崎県の綾町は有機農業の先進地で、脱炭素の観点から注目されている不耕起栽培を行っている。田原市の農地は6,800町歩もあり、将来的には担い手も少なくなるので、大型化よりも有機農業に力を入れてほしいと思う。
事務局	担当部署と調整し、検討する。
本田委員	資料4、46ページの説明文を読むと、豊富な地域資源の中にスポーツも含まれている。ここでのスポーツとは、トライアスロンや海、山でのソロスポートを指していると思うが、例えば陸上やバスケ、バレーボールもスポーツなので、この言葉だけでよいのだろうかという引っかけを覚える。 83ページ、「主な取組」の「教育機会の充実」の内容に、「部活動の円滑な地域移行を進めます」とあるが、これでは中学校の部活動がすべて無くなって地域に移行するという意味に取れる。86ページには「休日部活動」という言葉がある。聞くとところによると、まだ週3回ぐらいは部活動があるようなので、83ページも休日部活動という表記のほうがよいのではないかと思った。
事務局	46ページのスポーツについては、もう少しわかりやすくなるよう表現を工夫したいと思う。 部活動に関しては、83ページ「教育機会の充実」の内容に休日部活動という言葉を用いることが適切かどうかについて担当部署と協議する。

鈴木(照)委員	<p>資料4、17ページの市民意識調査から、田原市に欠けているものの1位が「交通の利便性」という結果が出ており、これは大きな問題だと思う。一方、田原市が優れていることの上位に「農業の発達」がきている。農業が優れているということに至った理由としては、昭和43年に豊川用水が全面通水し、芋と麦しか出来なかった渥美半島の大地に水がきたからで、日本トップレベルの農業地帯になった。つまり、社会のインフラを先人たちが整えてくれたおかげで今があるわけで、社会のインフラという意味では道路も同じだ。道路はすべての産業と市民生活に直結し、交通の利便性に欠けているという調査結果も出ている。そういうことで、田原市をもっと住みよいまちにするためにも、基本構想の中に交通インフラの整備に関する文言をもう少し入れてほしいと思った。</p>
戸田会長	<p>今回の案では道路のことが結構入っているが、もう少し強化してもらいたいというご意見かと思う。</p>
浅野委員	<p>今回示された計画案はモノクロページとカラーページの差が著しい。このバージョンで出るのか、それとも完成版は全部カラーになるのかを確認したい。</p> <p>53ページに校区別人口・世帯数が載っているが、載せる意図がわからない。校区別人口・世帯数を掲載するのであれば、各校区の面積等がわかる地図も載せ、比較できるようにすべきではないか。他の表、グラフについても同様。文章も特にないため、気になった。</p> <p>120ページに市街化区域定住人口の目標値があるが、立地適正化計画に合わせ、居住誘導区域の人口に関する目標に変えたほうがよいと思う。</p> <p>121、123ページに空き家のことを加筆していただいたのはよいが、120ページも合わせて読むと、書きぶりがバブルの頃と同じである。市街地の活性化は市街化区域が中心、空き家は景観等の問題になるから発生を減らそうというような感じで、相変わらず新市街地の整備の話が入っている。空き家についての話は間違っていないが、既成市街地のストックをいかに掘り起こして活用するかということが本来求められるべきところだ。しかし、それを記載して実際に取り組めるかということかなりハードルが高いので、そこまでは言わないが、本来はそのほうが望ましい。</p> <p>143～146ページ「行財政運営」にDXの話が全部入っており、139～140ページ「情報体制の充実」にシティセールスのことが載っている。だが、本来は観光等も含めた横串でさされるべきもの。105～106ページに観光のことが載っているが、非常に味気ない。体験型が重要というような話であるが、どのように進めるかについては一切書かれていない。DXやシティセールスと観光は全然関係ないという感じに読めてしまい、すごくもどかしい。</p> <p>田原市も、豊橋市や豊川市でもフリーWi-Fiがなく、長野県ではありえない話である。長野県の自治体はどこでもフリーWi-Fiの環境が整っている。この点が遅れているので、基本的なインフラを整備してほしい。道の駅はフリーWi-Fiの環境が整っていると思うが、そういうところに早く手をつけてもらいたい。あって当たり前前の環境だと思う。</p>

事務局	<p>計画案の色について。10月6日からのパブリックコメントには、本日の計画案をお出しする。最終、3月頃に製本する段にはレイアウト等もう少し工夫し、フルカラーにする。</p> <p>全体的にグラフや表の相関関係がわからないというご指摘は確かにそのとおりなので、精査したいと考えている。</p> <p>120ページの目標指標については、居住誘導区域の人口等に修正する方向で担当部署と調整を図る。</p> <p>空き家の件について。既存のストックを活用するなど、もう少し掘り下げた表現をしていきたい。前回の審議会後も担当課と詰めていたが、よい表現が思い浮かばなかった。再度担当課と精査し、もう少し書きぶりを修正する。</p> <p>DX、シティセールスの横串の件について。観光やそれ以外の分野でもその辺りの記載が不足しているため、DXやシティセールスの観点の表現を入れていくよう調整していきたいと思っている。</p>
戸田会長	<p>いろいろな計画が市の中で動いている。それを踏まえながら、強調点、あるいは考え方を明解に盛り込むようにしてほしい。DXは、おっしゃるとおり一番のピークになっている。書き方としては難しいが、そういう点をしっかり踏まえていただきたいと思う。</p> <p>資料2の概要に年限が入っていない。10年計画であることを明記すべき。</p> <p>ここからは、既にご発言された方を除き、順番にご意見を伺っていく。</p>
高崎委員	<p>昨日、田原市の未来についての話を市長から伺った。市長も人口減少を心配されていて、どうすれば田原の人口が増えて経済が活発になるかということを中心に話していた。それを踏まえ、私の主観も含めながら、教育と田原の未来についてお話をさせていただきたいと思う。</p> <p>子どもの起業に関する民間の教室が豊橋市に出来た。豊橋市は教育改革に莫大な予算を投入している。予算のバランスを考えるとどうかと思う点もあるが、豊橋サイエンスコアで大人が起業のために勉強するようなことを既に子どもが勉強し、しかも文科省等の大臣にお会いしているという情報を得た。コロナ禍の影響で、公立中学でもタブレットを活用した教育を受けることができるようになった。今の子どもは、私たちが教育を受けていた頃と違って、すごく進化している。秋田の国際教養大学はオールイングリッシュの全寮制、これで秋田の人口が増えている。また、最近家族で軽井沢へ移住するケースが多いそうだ。70分あれば東京に行ける交通利便性の高さに加え、働き方改革によって世の中が変わっているため、こうしたことを踏まえて自然豊かな生活を望む方が家族総出で軽井沢に移住するケースが増えているらしい。田原市もいろいろなことが整備されると軽井沢のように移住者が増えるのではないかと思う。その中で気になったのは、インターナショナルスクールの生徒数が既に飽和状態で隣町からでも通いたいという人が多いこと。東海大学はハワイ大学と提携していて、将来的には日米の医師免許が取得できるそうだ。田原市にも成章高校、福江高校、渥美農業高校があるが、これまで話してきた事例を参考に田原市でも魅力ある教育を行えば、人口が増え</p>

	<p>るきっかけになるのではないかと思った。</p> <p>最後に、私の息子は海外に出ている。彼の海外に出る目標は地域創生。私どもの会社でも田原の創生のために何かお手伝いさせていただけることはないかと夫や息子と話していた次第である。</p>
河合委員	<p>資料4の103ページ「商業の振興」の文章にいろいろと書かれているが、実際は想像以上に小売業の廃業が進んでいる。この状況で果たして取組がうまく進むのか、具体的なイメージが湧かないところがある。</p> <p>総合計画の存在は知っていても内容は知らないという市民が多いと思う。市民に浸透していくよう、もう一工夫要る気がする。</p>
森下委員	<p>資料4の103～104ページ「商業の振興」105～106ページ「観光の振興」とも大変上手にまとめられており、喜ばしい。ただ、主な取組について一言。10年間にわたってのプログラムだとするなら、もう少し具体的に書いてもよい。例えば市は伊良湖地区の観光開発に力を入れてくれているが、クリスタルポルトもいずれ建て替える計画がある程度進んでいると思うので、どのように建て替えるのかということが知りたい。福江市街地再開発にしても、渥美フーズの社長が来年秋にはある程度オープンすると言っているし、隣の農協跡地にプールも出来るので、その辺りのことを一歩踏み込んで書いていただければ有り難く思う。</p>
川口委員	<p>資料4の100ページ、取組の方向性01「水産資源の安定確保」の内容に「アサリなどの稚貝や稚魚の放流を支援」とあるが、ガザミ、ナマコ、エビの放流事業も行っているのでは、そのことも加えてほしい。</p> <p>今年からアイデア支援でカキの養殖も試みており、ブランド化できればよいと思っている。</p> <p>先ほど水害の話が出ていた。線状降水帯が発生した際はどこが危険なのか、市民に知らせているのか。6月2日の大雨で私の車が水没した。水没する可能性のある場所やアンダーパスがどこにあるかがわかる案内板のようなものを設置してほしい。</p>
山田(俊)委員	<p>申し上げることはいつも同じであるが、臨海には15,000人の方が働いており、税収等の市の財源はそこに集中している。ただ、地元との関わりは非常に少ない。ほとんどの社員が外から来ているというのが現状。それでも、これから大きな計画も予定されているということで、我々としては希望を持って仕事に取り組んでいる。ここに道路網が出来れば、浜松湖西豊橋道路との接続や4区までの道路整備にかなり大きな期待が持てる。特にこれからはエネルギーが重要だ。LNG、水素等の燃料転換に関する可能性が出てくると臨海も大きな変化が期待できる。経済も混んとしており表現的には難しいが、我々としては非常に希望があると思っている。</p>
小林委員	<p>消防団について述べる。人口減少により入団者数が減っていることが直近の大きな課題になっている。そういう中、皆さんに消防団のことを知ってもらうため、10月14日の消防団ポンプ操法大会に合わせ、わくわく消防フェスタという一般</p>

	の方も参加できるイベントを企画している。また、今までの訓練もすべて見直し、今後もしっかりと活躍できるような訓練体制を整えていきたいと思っている。
大和委員	大変素晴らしい案だと思っている。農業者としてこれからも頑張っていくので、よろしく願います。
山田(貴)委員	パブリックコメントを10月6日から1か月間実施するという説明があったが、市民に公表するのは、この冊子となっている資料4だと理解してよろしいか。実際に製本する際には用語解説も付くと思うが、横文字を中心に解説することを踏まえ発行していただきたい。
戸田会長	パブコメについて何か補足することはあるか。
事務局	基本的には、資料4の冊子を市役所、赤羽根市民センター、渥美支所等に設置する。ホームページにも掲載し、ご意見をいただく。用語解説も作成中なので、パブリックコメント実施の際には、それも付けることを考えている。
長神委員	資料4、73ページの目標指標を見ていただきたい。「地域のサロン設置数」の現状値が58か所、10年後の目標値は60か所となっている。田原市の65歳以上の割合は29.4%だが、20のコミュニティの中でこの29.4%をオーバーしている所が13あって、38%の所もある。10年後にはもっと高齢者が多くなる。人口は減っても高齢者は増えてくるというわけだ。60か所というと、20のコミュニティがあるので、サロンを3か所増やすことが目標かと思うが、田原市には105の自治会があるので、できれば各自治会にサロンを設置してほしい。特にコミュニティは大事。コミュニティの中に各種団体があり、老人クラブもこれに含まれている。休会する所もあるので、その辺りも加味しながら推進していきたいと思っている。
戸田会長	65歳を高齢者と呼ぶのであれば私も高齢者に入るわけだが、まだまだいろいろなことができる年齢なので、改めるほうがよいと思っている。もう少し担い方等々を考えていくべきという感じがする。人の捉え方は質の問題も含め、とても大事なことだと思う。
吉田委員	医療の関係では、それほど大きな変更点はなかったと思う。医師、特に研修医の確保についてはこれから10年かなり厳しい状況が続いていく。病院が学生と面談し、双方で順位を付けてマッチングするわけだが、東三河の病院はすべて定員割れとなっている。名古屋近郊もしくは豊田、刈谷辺りの小中規模病院よりも東三河の大規模病院のほうが研修を希望する学生が少ない。そういうことで、東三河地区における医師確保の難しさは今後も続いていくと思う。 資料4、27ページのイラストに病院が描かれており、緑十字になっているが何か意味があるのか。普通は赤十字だと思う。
事務局	特に深い意味はないので修正する。
石黒委員	観光についても先ほどご意見をいただいた。夢のある内容にしていかなければならないと思った。 資料4の9ページ、社会動態のグラフを見ると、去年は転入と転出の差がほとんどないが、これはたまたまなのか、それともこの状態は特異的なものなのか。

	<p>その点についてコメントをお願いする。</p> <p>30 ページに将来都市像として「うるおいと活力のあるガーデンシティ」と掲げられているが、インパクトがないと感じ、それが気になって仕方ない。田原市はゼロカーボンシティを目指しており、エコ・ガーデンシティ構想もある。そこで、カーボンゼロという言葉将来都市像に入れるぐらいのことができないのかと個人的には思う。また「活力のある」よりも“活力あふれる”といった、もう少しワクワクするような表現にできないのかとも感じた。</p> <p>31 ページの①に「本市の強みを最大限に引き出すとともに、本市固有の魅力を活用」とあるが、ここのストーリーがわかりにくいし「本市固有の魅力」というのは具体的に何を表しているのかと疑問なので、コメントをいただきたい。</p>
事務局	<p>9 ページ、令和4年に転入が伸びている件について。こちらには外国人等が入っている。コロナで令和2～3年に減っていた転入者が令和4年には外国人を中心に一気に戻ってきたということで、そういう特殊な要因かと思っている。来年少し以降はもう少し落ち着く形になるのではないかと考えている。</p> <p>31 ページ①の文章は表現がわかりづらくて申し訳ない。本市の強みを最大限に引き出すとともに、その魅力を活用していくという趣旨である。まずは埋もれている強みを最大限に引き出し、それらの魅力をうまく活用していくということだ。本市の強みとは、前段で言っている自然環境、農業、水産資源、臨海部の工業である。そこが本市固有の魅力でもあるということだが、表現が重複しているので修正する。</p>
戸田会長	<p>資料4の10 ページ、男性と女性の人口移動率のグラフについて。若年層の女性は一貫して減っているが、若年層の男性はあまり減っていない。これは臨海を主とした外部からの雇用の転入であると理解してよいか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり。自動車産業を中心とした臨海部に転入される若い男性が多いため、こういった形で減少が抑えられている。</p>
渡会委員	<p>先ほど外国人の転入がコロナ前に戻ったという話をされていたが、技能実習生の流入についても同様で、今後も増えていくと思っている。</p> <p>資料4の137 ページに記載の姉妹・友好都市との交流に関して。国際的な感染症に翻弄され、アメリカの2都市との交流は全くなくなった。また、中国の昆山市との交流で、色々な催しが準備されていたが、昨今の事情で中止になった。国際交流に関しては世界的な情勢、もしくは、いわゆる問題において非常に左右されるというのがここ数年の感想である。だが、SNS等を通じて田原にいても世界とつながることができるので、知識をアップデートしながら情報を発信していきたいと思っている。</p>
長島委員	<p>先ほども話が出ていたが、資料4の10 ページに人口移動率のグラフが加わり、興味深く見ていた。人口減少抑止のためには、このへこんでいる年齢層にメッセージを届けなければならないと思ったところだ。</p> <p>総合計画というのは汎用性と網羅性が必要なので150 ページもあるのだろうと</p>

	<p>思う。一般企業でも決算説明の際には同じぐらいのページ数の資料を用意するが、補足でサマリーもあり、サマリーを中心にプレゼンテーションしていく。若年層にこの膨大な計画書をどう届けるのか。感覚のずれがあるような気がしている。サマリーのような資料もあれば、興味のある分野から掘り下げて見てくれるかと思う。</p>
事務局	<p>本編はどちらかといえば市役所の職員向けで、市民の皆様にはわかりやすい概要版を全戸配布する。また、若い人たちに田原の良さをアピールし、将来的に戻ってきてもらうことを目的に、子ども向けの概要版も作成し、中学2年生に配っていく予定。</p>
太田委員	<p>資料4の77ページ「高齢者福祉の充実」、施策の目指す姿のところに「高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で自分らしく生きがいをもって元気に生活できる」と書かれているが、これに尽きると思う。ただ、現状と課題の4点目「健康な高齢者」という言葉に引っかかりを覚える。健康でなくても人々に与えられる何かがあるはずだ。また、地域の元気な高齢者が魅力ある仕事をしていると、若い方もあのようになりたいということで地域に根ざして生活できるのではないかと思っている。人口を増やすのは難しいが、とりあえずは自分たちの暮らしている所を充実させていけばよい。それには地域の身近な人たちの力が重要で、それぞれの住みかを大事にしてほしいと思う。</p>
佐藤委員	<p>この膨大な計画書を全部読む市民がいるのだろうかと思っていたが、概要版を配布すると聞いて安心した。</p> <p>71ページ、取組の方向性03「児童福祉の充実」の内容が「各種手当の支給」となっているが、これでは漠然としている。手当の具体的な内容を載せてほしい。また、協働の取組のところにファミリー・サポート・センターのことが書かれているが、文章だけなので物足りない。依頼会員と援助会員の登録者数や利用状況がわかる表なども載せてはどうかと思った。</p>
事務局	<p>先ほど市民の皆様にはわかりやすい概要版をお配りすると申し上げたが、総合計画についてもっと知っていただくためのセミナーもしくはシンポジウムを開催したいと思っている。</p> <p>森下委員、佐藤委員から具体的な記載の要望があったので、書ける範囲で調整する。ただ、あまり細かく書いては支障が生じる面もあるため、その点に気を付けながら工夫したいと思う。</p> <p>川口委員からはアサリ以外の放流事業も行っているというお話があったので、そちらについても調整のうえ記載を考える。また、今回の計画外かもしれないが、浸水の可能性のある場所を公にしたほうがよいというご意見もいただいた。こちらについては防災部局にしっかりと伝える。</p>
稲垣委員	<p>浸水の件について。6月上旬の豪雨の際、田原から渥美地区へ帰った人から聞いた話をする。国道259号を使うと宇津江地区を通ることになり、そこには山があって土砂崩れが心配だから国道259号を使わずに帰ろうと思ったそうだ。それ</p>

	で大久保から石神への道を通ったが、そこでも浸水で動けなくなった車両が何台もあったらしい。浸水も深刻な問題だが、渥美半島には山があるので崖崩れの対策も入れていただければと思う。
事務局	土砂崩れについては、土砂災害警戒区域ということで示している。ただ、最近では集中豪雨が多く、どこが崩れるかというのが特定できない。まずは、土砂災害警戒区域と表示のある場所をご確認いただきたいと思っている。 長神委員からはサロンを全地区にというお話があった。10年間で可能な数字かどうかということを考えながら、担当部署と調整する。
戸田会長	一通り意見をいただき、事務局から回答もあった。追加意見はあるか。
河合委員	資料4、26～27ページにイラストがある。これが田原市の目指す姿と考えると、将来都市像は「うるおいと活力のあるガーデンシティ」よりも、先ほど石黒委員が提案された“うるおいと活力あふれるガーデンシティ”のほうが市民の持っているイメージにふさわしいと思う。“活力あふれる”に変えればワクワク感が増し、このイラストとも合うような気がする。皆さんはどう思われるか。
戸田会長	それでは、ここで決めたいと思う。「活力のある」を“活力あふれる”に変えてはどうかというご提案だったが、いかがか。
鈴木(照)委員	私も今の提案に同感だ。“活力あふれる”のほうが、みなぎるような語感があるし、変えても特に問題はないと思う。
戸田会長	他にご意見はないか。特にご異論はないようなので「うるおいと活力あふれるガーデンシティ」に修正する。
長神委員	資料4、30ページに基本構想が載っている。基本構想は、行政のみならず市民や団体、事業者などの多様な主体で目指すべきものであるが、どこを読んでも“明るい未来が展望される”といった文言が見当たらない。市民憲章にはこの言葉が入っている。そこで、30ページの最初の文章を“物質的な豊かさとともに、精神的な豊かさが実感でき、明るい未来が展望される郷土を築くことを目指します”というように変えてはどうかと提案する。
戸田会長	基本構想の序文に市民憲章を反映してほしいというご意見であった。
事務局	検討する。

4 その他

戸田会長	「その他」について、事務局から願います。
事務局	次回の第6回審議会は、11月22日(水)10時30分から、この会場で開催予定である。
戸田会長	第6回審議会において市長への答申を行うこととなっている。 本日は長時間にわたってご審議いただき感謝申し上げます。 これをもって第5回田原市総合計画審議会を閉会する。

以上